生徒に見られるつまずき

　ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもたず、語彙を増やす意欲に乏しい

つまずき解消に向けた指導のポイント

　複数の資料を使い、より理解表現を選択させ、ことわざを理解し、使うことができるようにする

指導事例集ｐ．５９

１　学年・単元名　第３学年

「言葉の小窓２」

『慣用句・ことわざ』（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

２　単元目標

慣用句やことわざに関する知識を広げ、「伝統的な言語文化」の一部としての意味を知り、普段の生活の中に活用していけるよう、語彙を豊かにする。

３　単元の内容

　　・各自担当のことわざを決め、図書室の資料を使って意味や用例を調べる。

　　・ことわざの意味を理解した上で、それを絵で表現し、短作文を作る。

　・班で互いに絵を見せ合い、どのことわざかを推測させる。

資料②　「ことわざ一覧」

資料③　ワークシート

４　本時の目標　　（全３時間　本時は第３次）

　　第１次　ことわざの由来を知り、普段の生活でどのようにことわざを活用しているかを確認するこ

とができる。

　　第２次　自分が担当することわざについて複数の資料から適切な意味を選び、わかりやすく表現す

ることができる。

　　第３次　「ことわざ調べ」を４人班で交流し、理解を深めることができる。

５　展開　**太字はつまずきに対する手立て**

◯第１次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　本単元の意義と活動計画を確認する。前後にアンケート①を使用し、集計結果を作成しておく。 | 〇　事前に実施した「ことわざ・慣用句アンケート」の結果を使い、ことわざについての意識を伝え、今後の学習につなげさせる。 |
| 展開 | ２　ことわざクイズプリント使って、理解度を確認する。３　国語便覧を使って、答合わせをする。４　担当することわざを決める。資料　② | **〇　クイズに意欲的に参加できるよう、周りと相談することも認める。**〇　ことわざと慣用句の違いも押さえる。〇　国語便覧に掲載されていることわざの中で40個選択し（ことわざ一覧を作成する）、出席番号順で割り当てる。　　（学級の人数に応じて数は変動する） |
| まとめ | ５　次時の活動内容を伝える。 | 〇　必要と思われる資料の準備を伝える。 |

◯第２次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　本時の活動内容を確認する。 | 　 |
| 展開 | ２　「ことわざプリント」を作成する。　　ことわざの意味、同義のことわざ、例文、ことわざを表現したイラストなど資料　③３　ことわざを使った例文とイラストについて４人班で推敲する。 | **〇　複数の資料から、最もわかりやすい表現を選択させる。****〇　つまずいている生徒には例文やイラストの見本を提示し、助言を与える。**〇　イラストにはひと言ふきだしつけてもよい。**〇　ことわざをイラストに表現することで、意味を可視化しやすくさせる。** |
| まとめ | ４　「ことわざプリント」を清書する。 | 〇　未完成の者は、次時までに仕上げてくるよう伝える。 |

◯第３次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　本時の活動内容を確認する。 |  |
| 展開 | ２　完成した「ことわざプリント」を４人班で交流する。◎プリントを半分に折り、上のイラストだけを見て、どのことわざかを考える。３　ことわざの意味とイラストの整合性を確認させる。 | 〇　初めは、イラストだけで考えさせる。〇　次に、前時に配布していることわざ一覧を見て、考えさせる。〇　最後に「例文」を読んで考えさせる。 |
| まとめ | ４　「ことわざ振り返りアンケート」を実施する。　 | ○　単元終了後各教室前の廊下に、各自が作成した「ことわざプリント」を掲示した。同じことわざを調べた他クラスの作品と比較したり、他のことわざの作品を鑑賞することによって楽しんで語彙を増やすことができる。 |